健康維持増進住宅　研究ロードマップ

平成19年9月27日版

健康維持増進住宅研究委員会

背景と目的 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010以降の展開（年度）

7/18 第1回　12/17 シンポジウム開催　検討の方向性の決定　成果の取りまとめ

（1）健康負荷削減部会

- シックハウス対策等が行われてきたことから、学術的な知見の蓄積がある。
- 健康に関してマイナスの影響要因を明らかにし、それらを排除して健康で快適な環境を実現するための室内環境の基準作成等を行う。

- 健康負荷の原因の整理（文献調査、専門家レクチュア）
- 各種手法に基づく健康影響評価
- 健康負荷要因データベースの構築
- 健康負荷要因抽出のための調査・実測
- 室内環境基準とライフスタイルの提案
- 要素技術の整理（文献調査、専門家レクチュア）
- 要素技術の開発と統合化のための実験・調査
- トータルシステムの提案

（2）健康増進部会

- 民間企業において、個々に研究は行われていたが、科学的な知見をベースに統一的に評価された技術は少ない。
- 健康に関してプラスの影響要因を明らかにし、それらに対応する要素技術の開発や新しいコンセプトに関する研究を行う。

- 要素技術の抽出（文献調査、専門家レクチュア）
- 評価手法の開発
- 健康維持増進住宅の定義、概念設計
- 要素技術の開発

（3）設計部会

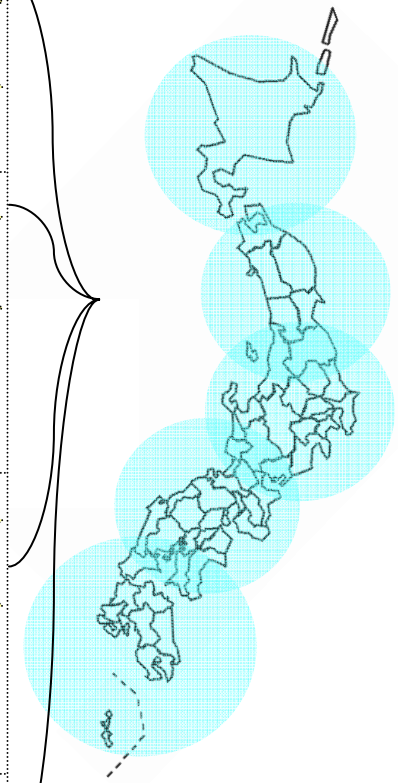
- 物理的な性能やそこで展開する生活像が個別に検証されることが多いが、健康な暮らしを横断的に捉えていく視点が不足している。
- 住宅設計という観点から、横断的かつ総合的な健康維持増進住宅の設計手法の開発を行う。

- 要素技術の把握（文献調査、専門家レクチュア）
- 要素技術、空間特性、地域特性の統合化
- ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ、空間性、地域性に関する情報収集・整理
- 設計マニュアルの作成

（4）健康コミュニティ部会

- 少子・高齢化、人口・世帯の減少、社会保障関連費の増大、環境負荷の増大は、中山間地域において先鋭的に進行している。
- 健康維持増進住宅の普及による健康コミュニティの諸効果の中長期評価手法を開発し、健康コミュニティのモデルを提案する。

- 既往研究と統計データの整理・分析（文献調査）
- 健康コミュニティがもたらす諸効果の中長期評価手法の開発
- 健康コミュニティに関わる対策・要素の抽出
- 生活の質や健康度を評価するための指標の検討・提案
- 地域別フィールドスタディ（アンケート調査、インタビュー調査）
- 地域別健康コミュニティモデルの提案
- 地域レベル／全国レベルの諸効果の検討

モデル住宅の建設計画

（全国各地に5～6カ所程度）